

## 令和3年度 第9回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

### 1 日時

2022年（令和4年）2月24日（木）午後6時3分～午後7時17分

### 2 場所

ウェブ開催

### 3 出席者

(1) 委員 10人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、樋口委員、木村委員、細沼委員、西上委員、  
間山委員、原田委員、鎌倉委員

(2) 市側 6人

福室参事、森主幹、近藤補佐、一瀬上級主査、緒方主査、浅野主任

(3) 藤沢市市民活動推進センター 1人

関野センター長

### 4 議題

(1) 協働コースの審査結果の報告について

(2) 今年度の取組結果及び次年度の取組計画について

### 5 開催概要

#### 開会

(山岡委員長) ただいまから令和3年度第9回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。

まず初めに、委員会の成立状況のほか、傍聴者の状況などについて、事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## (1) 協働コースの審査結果の報告について

○事務局より、協働コースの審査結果の報告について、説明が行われた。

(山岡委員長) 協働部会のコースの方は既にご承知のことなんですけれども、部会じゃない方は、初めて聞くこともあるかと思います。

今の事務局の説明について、確認しておきたいことはございますでしょうか。報告でするので、ご質問とか確認等あればぜひお願いいたします。

協働部会のほうでも、行政との協働がゼロということはどうなのかという意見交換もありましたけれども、今事務局からご報告いただいたように、行政側のほうでも協働の重要性を認識して働きかけをしていただけるということで、それはすごく大事なことだなというふうに思います。——よろしいですか。

特にご質問等なければ、以上で議題1「協働コースの審査結果の報告について」を終了いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## (2) 今年度の取組結果及び次年度の取組計画について

○事務局（市民自治推進課／市民活動推進センター）より、今年度の取組結果及び次年度の取組計画について、説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の事務局の説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。

今年度の報告と今後の計画ということで、今、かいつまんでご報告いただいた範囲のところでは、すごく大きな問題があるとか、計画どおりに全然進んでないとか、そういうようなことはなく、コロナ禍でありつつ、工夫しながらそれぞれ進めていただいているというふうに受け取っていいかなと思います。ただ、個別のことについてはいろいろ細かく記載がありますので、ぜひここでご質問、確認等していただければなと思います。が、いかがでしょうか。

(坂井副委員長) 幾つかあるんですが、まず一つ、お伺いしたいと思います。

ミライカナエル活動サポート事業で、先ほどの報告と関連するんですけども、行政のほうとの協働がちょっと生み出されにくいというのは、一つ課題としてありそうだなというふうに思っているんですが、新年度は、行政部署に向けた研修も計画されているというお話をいただいています。大変いいことなので、ぜひやっていただきたいと思うんですが、その研修の対象は全ての所属になるのか、希望された所属ということになる

のか、まずお伺いしたいと思います。

(事務局) 実際、協働推進という観点で、行政が地域団体あるいは民間企業とどう協働していくか、その大切さみたいなものを研修の中で学んでいくというものなのですが、例えば階層別研修というものがございしますが、具体的に採用何年目の職員にやるとかという部分まではまだ決定しておりませんで、現在は職員課と継続的に調整中という形でございます。

(坂井副委員長) できましたら、全ての所属の職員、もちろん全員というのは無理ですから、全所属が参加する形のものを考えていただきたいと思うんですね。あまり協働と縁がないような所属もきっとあると思うんですけども、市役所の人事異動でいろんな部署を回るでしょうから、そういう研修は皆さん経験されたほうがいいだろうと思います。

それから、これはちょっと手間がかかることなので、可能であればということで申し上げますけれども、今の協働の研修と連動して、市役所が一体どのくらい市民活動と連携した取り組みを行っているのか、調査してみるというのもあるかなと思うんですね。連携の度合いもいろいろあると思うんですが、ここで取り上げている協働事業のような完全に四つに組むようなものから、ちょっと協力関係があるという軽いものまでいろいろあると思うんですけども、今後の作戦を考える上で、実態を一回明らかにしてみるというのは意味があるのではないかと思います。これは私の感想です。

(山岡委員長) 今の2つ目はどうですかね。そういうことは、かつて洗い出してみたいなことは。

(事務局) 今年度、企画政策課という部署が連携の好事例という形で庁内全課に照会をかけております。いわゆる連携というものは大小含めて結構いろいろあるんですが、例えば民間企業と個別の協定を結んでこんな取り組みをやっていますとか、あるいは協定ではなくとも、色んなつながりの中で、こういった取り組みを一緒にやっていますよという部分は、現在は一つに取りまとめられまして、庁内のシステム掲示板に掲出され、全職員がそれを確認できるようになっております。

(坂井副委員長) とてもいい試みだと思うので、ぜひ発展させていただきたいと思います。

(山岡委員長) 今のは、市の職員とかに対して公開されているということですよ。

(事務局) そうですね。対外的にどこまで出しているのかは、未確認でわからないのですが、けれども、庁内の職員は共有できる環境にあるということです。

(山岡委員長) 今回の協働事業のことで、市民活動をしている方たちにも、行政と市民団体とか民間はこういうふうに関連しているんですよというのがわかると、これから新たに協働を進めていこうというときに、市民活動団体側も行政との協働でうまく作戦を練って提案できていないのかなという感じもあったので、どういう公開の仕方がいいかわかりませんが、差し支えない範囲で、市民活動側の方もそういう情報が見えるといかないかなという気もしました。

(事務局) 来年度も、ミライカナエル活動サポート事業につきましては、募集開始前に募集説明会を行わせていただきます。そのときにでも、行政が抱えている課題も少し事例としてお示ししながらも、加えて今、ご指摘のありました市民活動とどういった協働事例があるのかとか、そういったことも含めて、ちょっとお示しすることができれば、少しイメージしやすいかと考えております。応募しやすい環境が少しでも進むかと思しますので、募集説明会の内容を含めて検討させていただきます。ありがとうございます。

(山岡委員長) ほかに、いかがでしょうか。

(鎌倉委員) 2つありまして、一つは私の住んでいる明治地区で、今、情報の共有を回覧板方式でやっているのです。町内会員でない人たちもいたりして、非常事態、災害時の周知だとか見守り、独居老人の関係は、IT化あるいはデジタル化をしようという話をしているのです。鶴沼あたりの自治会に、いいケースがあるというので、見学に行ったりしています。SNSにしましよとかホームページをつくりましょとか、そういうのも町単位で動きが少しずつ出ているようなんですが、モデルケースがないので、それぞれみんな勝手なことを考え、勝手にやると、お金も手間暇もかかるんですね。

ここのIT相談というのは、私もサポーターをやっていますが、それでは不十分で、これをやればいいよという何らかのモデルケースがあると、そのとおりやればいい。それぞれの地域で、ITに詳しい人もいれば、いないケースもあって、それぞれなんですけれども、モデルケースがあったら導入が楽になると思うんですね。何かそんなことを検討していただけると、ありがたいなと思っています。

もう一つは、やっぱり地域の市民活動の担い手が高齢化していて、その後を担ってくれる人がなかなか育たない、あるいは立候補してくれないというのがあって、少し時間がかかると思うんですけど、ここに書いてあるインターンシップというのが、一つの手段としてすごくいいんじゃないかなと思っています。参画するところで、学校単位だったり、どうも偏りがあるように思うんですけども、参加を募る方法をもう少し強化し

でもらったらどうかなと思いました。

(山岡委員長) ただいまのご提案というかご意見、いかがですか。

(事務局) 先ほど、1点目、回覧板のIT化ということで、鵜沼の自治会なんかも見学されたというのは、鵜南みどり会さんになりますでしょうかね。県内でも非常に先進的な事例です。回覧物を自分の自治会のホームページに掲出をしている自治会は結構多いです。ただ、更新しました、要するにそういったコンテンツをアップロードしましたよということをLINEでプッシュ通知しているのは、県内でも、私の知る限り3例しかなくて、大和、開成、そしてこの鵜沼ということになるのですけれども、私もその自治会の広報部長さん、自治会長さんと意見交換などをしてまいりました。

もともとはコロナ禍の中でどのように回覧物を回すのがいいのか検討した結果、1000世帯ぐらいなんですけれども、うち800ぐらいがLINEで登録をされるようになった。最初は200人ぐらいだったそうなんですよね。それが地道に、回覧物を掲出するたびにLINEの登録を誘導するような二次元コードをつけて、どんどんふえていったという話も聞いています。

そういったお話は聞いてきたんですけれども、じゃ、そういったことをモデルケースとできるのか。例えば、LINEのオフィシャル、そういったものを各自治会さんに付与できるような形をとっていくのかということ、検討にはなるのですけれども、全ての自治会さんはなかなか難しいと思います。特に、後段のお話にもありましたように、担い手ですね。鵜南みどり会さんもおっしゃっていたんですけれども、やろうと言う人がいないと、なかなか難しいところがございますので、そういった担い手をどうしていくのかということとあわせて、何をモデルケースとできるかというのは、ちょっと検討させていただければと思っております。

1点目については以上です。

(事務局) 2点目の担い手不足のところ、市といたしましても承知している課題でございます。実際、地域の団体さんで担い手が不足しているという部分はあると認識しております。インターンというお話もあったんですけど、いわゆる世代の循環みたいなものをどうやって促して、仕掛けをしていくかという部分もポイントだと思っております。

本日、実は慶應義塾大学の湘南キャンパスに伺わせていただいて、大学の先生お二人の方々と、学生の方々の自治会あるいは地域への活動への参画みたいなものをどう仕掛けていくか、少しお話をしてきました。

学生の方々なので、もちろん大学を卒業したら藤沢市を離れる方もいらっしゃるのですが、すけれども、今、慶應大学とかの学生さんで、引き続き藤沢に住みたいという方たちはたくさんいてくださるという、ありがたいお話もありつつ、実は地域でいわゆるフィールドワークみたいなものを積極的にやりたいという学生さんはものすごく多いそうなんです。みずから自治会、町内会の会長もやってみたいんだという話もございました。

一方で、学生として20代の自治会長となった若者が、地域の中で受け入れられるかという、そのハードルは、やはりあるという話もありました。学生の感覚、若い視点で、こうしたほうがいいんじゃないとか、いろいろアイデア出しはしたんですけども、どうしても今までの取り組みを大きく変えなければいけなかったり、その意見が地域の、より長くお住みになっている方からすると、なかなか浸透しにものだったりとか、地域の事情はそれぞれあると思いますので、そういった意味で、意見して、やってみたいと思ったことがなかなか通らなくて、ちょっと歯がゆい思いをした学生もいたというお話もありました。

先生曰く、地域の担い手の不足、あるいは高齢化の問題は、欧米を初め隣の韓国でも国際的に課題になっている案件とのこと。なので、本当に一筋縄ではいかない課題なんだと捉えてきたところがございます。

ただ、大学の先生も、コミュニケーションなどを通して、地域の人たちと一緒にあって、何かやることによって、藤沢市の中でも学生が一つの研究テーマを達成していくことは、やらせてみたいとお考えでしたので、引き続き、連携を図ってまいりたいと考えております。

明確なお答えはなかなか難しいのですが、藤沢市の中では4つの大学がございますので、若い視点の部分も含めて、できることから取り組みを進めてまいりたいと考えております。

(西上委員) それに対してちょっとした事例の紹介ですけれど、横浜国立大学の学生さんたちで、竹山団地だと思んですけど、横浜の中で結構大きな団地の中に、サッカー一部の学生がみんな団地に住んでいるんですね。

団地は家賃がちょっと安かったりとかするのもあって住んでいるというのと、サッカーは、日本のJリーグを思い浮かべていただくと、地域ごとにあって、地域を大事にして応援してもらおうというベースがあるので、サッカー部の子たちは、ファンの裾野を広げたいわけなんです。大学のサッカー部だけど、同級生だけに応援してほしいわけではなく

て、やっぱり地域の人たちとか、自分が住んでいる町の団地の人たちにも応援してほしいという気持ちがあるので、応援してほしいと思うなら、自分たちも地域に貢献しなきゃいけないと考えて、アパートに住むこともできるんだけど、団地を選択した。サッカー一部がほぼ全員住んでいるわけじゃないんですけど、応援してほしいという気持ちで団地を選んだ子たちが、コロナで予約できないシニアがたくさんいるということに気がついて、団地の中に入っている竹山病院のお医者さんや看護師さんと一緒に、スマホ講座を始めたのです。

AndroidでもiPhoneでも、スマホの簡単な使い方を教えながら、「君たち、学生なんでしょう？ 何してるの？」と言われたら、「大学で建築を勉強していて、サッカーもやっています。今度試合があるので、よかったら見に来てください」とかという話を、スマホを教えながらする。そうすると、教えてもらった人は、その団地の中で学生を見かけたら話しかけるし、わからないところがあったら、「これはどうやるの？」と聞いてくれる。「サッカーの試合があるんだったら、ちょっと見に行くか」と言って見に来てくれたり、そういう心の通った対等な交流を1年以上続けているんですね。

地域のほうは、学生を巻き込みたいという気持ちで接すると、学生は「嫌っ！」と思っちゃうんですよ。巻き込んでみたものの、町内会長をやったらみんなにそっぽ向かれるみたいなのは最悪じゃないですか。なので、ちゃんと対等な関係性の上で、お互いに一緒に何ができるか考えるというのがすごく大事なことだし、それを続けることで新しい何かが生まれてくると思うので、その視点を横国の竹山団地にいる子たちからちょっと学ぶというのも、遠くない場所だと思うので、いいんじゃないかなと思っています。

(山岡委員長) 今、林委員から、「神奈川大学ですかね」という情報提供がありました。神奈川大学だとしたら、恥ずかしながら存じ上げなかったです。こういう事例はほかにもきつとあると思うので、参考にできるところはしていただいたらいいかなと思います。

(鎌倉委員) その点について、補足ですけど、SNSとかIT化、ICT化を図るときに、町の役員と話すと、やっぱり高齢者が多いので、まず言葉がほとんど通じないと、理解してもらえないので、なかなか進みません。そういう意味でも、これは若者に担ってもらったほうがいいと思うんですけど、若者が担っても、重鎮たちは言葉がわからないとか、ICTの内容が全くわからないので難しいことがあるというのが、今のところの感想です。

もう一つ、担い手のほうは、定年年齢が上がったりして、皆さん、働く期間が延びた

ので、町のことになかなか手を割けないという状況があるので、役員の中でも、じゃ、女性活用だという話になるんですけど、女性のほうも、社会進出が激しく、活躍の場がふえているということで、喜んでやってくれる人が減少傾向にあるという話になっています。だから、この担い手も、仕事をしつつ、参画してもらおうというのが結構大変で、仕掛けを考えないとだめだなというのが、今のところの感想です。

(細沼委員) 先ほどの慶應大学の件ですけれども、湘南大庭地区郷土づくりのほか、自治連もそうなんですけど、既に慶應大学の学生さんと協働というか、ホームページのスマホ版に関しても、あと、スマホ教室も、慶應大学の方に、随分前からご協力をいただいでいて、一緒に活動しております。

湘南大庭なので、慶應大学さんは近隣になるということで、遠藤地区の会長を含め、私は今年度、自治連の会長をやっているのですけれども、自治会が学生の中でできたという情報も得ていて、こちらのほうで、ぜひ一緒に何か活動ができればお願いしたいということは申し入れしてあるのです。たしか大学の先生のほうにも、申し入れはしてある。大学生のほうも、どこかのゼミの方から、湘南大庭の単位自治会の役員会に参加してみたいというお申し出もあって、役員会に受け入れてくれそうな自治会さんを自治連のほうでもちょっとお声がけしている状態になっています。

今年度、湘南大庭地区の自治連に関しては、世代交代を目標にしていて、27歳から委員の方にもいろいろ入っていただいて、出していただいた意見は極力、皆さんで考えながら、尊重して進めていくという形をとるようにしています。

今年度は世代交代を目標にして動いていて、今年度やっていただいた人に、意見等々を聞きながら、また来年度も、メンバー的に新しい方がどんどん入っていただけるように、自治会としても工夫しているところがあるのです。慶應大学を含め、多摩大さんとかほかの大学さんとか、いろいろあると思うのですけれども、単位自治会でも、大学生を受け入れてくれるところもあるかと思うので、それは市民自治推進課のほうでお声かけいただければいいんじゃないかなと思います。

(山岡委員長) 実際、そうやって直接つながって、進んでおられるということですね。

ほかにいかがでしょうか。

(原田委員) チーム FUJISAWA2020 にもちょっと関連するので、お話をしようかなと思います。

私がやっているNPOが、子どもの居場所なんですけれども、そこに大学生が中学生

の勉強を教えてくれたり、オンラインで中学生の家での勉強を見たりというのをここ1年ぐらい、結構定期的にできるようになってきました。その入り口が、ホームページにアップしていたりするサイトを見てくれたりとか、例えば「藤沢市 子ども ボランティア」で検索したときに、上位に上がってくるところから大学生は当たりをつけていて、話をして、そこに行ってみようかなとなると聞きました。今回、チームFUJISAWA2020ができたということで、今、見てみたんですけども、あまり情報が入っていませんでした。大学生や高校生が見て、そのボランティアであったりとか、NPOに参加してみたいと思えるような画面づくりも、一つ必要なんじゃないかなと思います。

今あるものを見た感じだと、おしゃれ感が少ないというか、高齢者の方を対象にしているようなイメージも感じたので、サイトのつくりであったりとか、検索したときになるべく上位に出てくるような仕掛けとか、そういったところも必要なんじゃないかなと思うんですけど、そのあたりで何かお考えがあれば、お聞かせください。

(事務局) 現在のところ、生涯学習部のオリパラ準備室の事業ということで、市民自治推進課では、来年度に向けてこれまでの経過などの共有を進めているところでございます。

実際のサイト構築に当たっては、社協さんのボランティアセンターとか、市民活動推進センターとかにも入っていただいて、いろいろ意見を出しながら、まずはスタートしたと聞いております。

今、原田委員がおっしゃったとおり、サイト利用に当たっては、まず安心して登録してみようかなと思う部分で、必要な情報の掲載や、個人へのインセンティブというのはなかなか難しいんですけど、回数を重ねることによって、次への意欲につながる仕掛けですとか、ボランティアに一步踏み出していただく仕組みみたいなものは、まだまだ不足しているんじゃないかなど、今年度、意見交換をさせていただいています。

今のサイトで全て完了しているわけではなく、サイト内部のオプションとかも含めて内容を少しブラッシュアップしていく予定はございますので、そういったところも含めて、工夫を凝らしながら、更なるコンテンツを追加なども検討しているところでございます。

(原田委員) 新規会員募集中と書いてありますが、団体がページをつくるについても、応募して載せていくことになるのですか。

(事務局) そうですね。申請していただいた後に、ご自身の団体ページが設けられるので、

そこに団体さんが、団体の紹介や YouTube を張りつけたりができるようになります。

現在のところ、団体さんがやる事業に対して、誰か手伝ってくれないか、手を挙げてくれないかというのが中心となっているのですが、一方では、継続的に参加してくれる会員さんが欲しい団体さんもあつたりするわけです。このサイトが、どこまでのマッチングを対象とするかというルール決めも、今はっきりしているわけではないので、そのあたりも含めて、仕組みづくりもう少し進める必要があると考えております。

(原田委員) 細かいことになったら、どこかホームページに飛ぶようにして、そっちで見るとかいうことできるといいですね。

(事務局) 団体さんの詳細情報とか、あるいは情報量が多いものについては、チーム FUJISAWA のサイト内で掲載するよりも、サイトへの負荷もございますので、基本的には団体が持っていらっしゃるサイトのほうに誘導していくことになると思います。

(原田委員) どれだけ多くの情報があるかがキーになると思うので、団体登録は既にいっぱいあるわけですから、働きかけて載せていただくように。例えば、片瀬だと片瀬ボランティアというチラシがあって、いっぱいいろんな団体が出ていたりするんですけども、そういうのも積極的に市のほうから働きかけて、ページを持っていくということにしないと、パッと見たときに、「ちょっとしかない。もういいや」となってしまうので、できるだけ情報を入れておいたほうがいいかなと思いました。

(事務局) 一方では、団体さんのデジタルデバインド問題もございまして、どうしても支援が必要な状況です。先ほど推進センターより、そういったところも支援をしていますよとお話いただきましたが、デジタル技術も一定必要とすることから、二の足を踏まれている団体さんもいらっしゃると思っております。

ただ、原田委員おっしゃるとおり、サイトを知って、実際にエントリーしようと思って入ったとしても、募集されている内容が薄かったりすると、次の検索にどれだけつながるのかといった部分もございますので、全庁的な取り組みを含めてしっかり考えていかなければいけないかなと考えております。

(原田委員) 最初が肝心だと思いますので。

(事務局) そうですね。ありがとうございます。

(山岡委員長) なかなか難しいところはあると思うんですよね。こういう市民活動の情報のポータルみたいなのとかっていっぱいあるけど、うまく活用できているところはそんなになかったりする。掲載している情報もそうだし、私は逆に、ウェブ上でやると、

ボランティアのミスマッチみたいなのが結構来たりするんじゃないかなとか、そういうもののフォローとかサポートはどうするのかとか、ほかにも気になることはあるのです。

いずれにしても、来年度からということですので、今、原田委員からご指摘あったようなことも含めて検討いただければと思います。

進行表では大体時間なんですけど、ほかにはいかがでしょうか。

(細沼委員) <基本指針3>の3-②の2市1町の取り組みがあります。湘南大庭地区が茅ヶ崎市との市境区域になっていて、実は4自治会・町内会さんが湘南大庭に入っているんです。これは市で協定していることなので、こちらも対応させていただいているのですが、実は先月、茅ヶ崎市の小出地区の自治連の会長さんが、情報交換したいということで、連絡してこられました。あちらも隣接しているので、地域課題を含め、湘南大庭のほうではどういう自治連の活動をしているのかということ、ホームページを見られて、会長さんがいらっしゃったのです。

災害時に、できれば一緒に対応したいというお申し出もあった。茅ヶ崎市との境なので、湘南大庭地区にある大型店舗ですとか、医療機関ですとかはほとんど利用している、今後も情報交換しながら、交流をしていきたいというお申し出が先月ありました。事務局のほうでまとめてあるので、後日そちらのほうにお送りしようかなと思っていたのですが、ここに書いてある、広域連携協議会というのは、行政同士でやっているということによろしいですね。

(事務局) そうでございます。

(細沼委員) 茅ヶ崎市さんのほうで、湘南地区まちぢから協議会というのができたらしくて、そういう情報とかも最近、自治連のほうに直接お問い合わせいただくことが多く、4自治会が含まれてしまっているということで、興味があるのかなというのもあるのですが、避難施設なんかはちょっと重複しているところがあるので、今後も情報交換は必要かなと思っています。その辺、ここは行政でやられているので、こちら側としても、個別に進めていってしまっているのかがよくわからないのですが、お話は事務局にお通しすればよろしいでしょうか。

(事務局) 茅ヶ崎市と寒川町と藤沢市の3者の行政機関が顔を合わせて、ざっくばらんにお話しできる場がございますので、例えば、細沼委員のほうで、地域の中で、市境問題とかでいろいろお困りになって、「ここはちょっとこう困っているんだけど」というこ

とがありましたら、一旦、湘南大庭市民センターさんのほうにもご相談いただきつつ、実際に少し話し合いが必要、行政間で調整が必要だということがあれば、市民自治推進課に情報提供いただければと思います。寒川町さんもいらっしゃいますので、協議会の議題にするかどうかは分かりませんが、茅ヶ崎市さんと調整してまいりたいと考えております。

(細沼委員) あちらは、この前、お一人でいらっしゃったのですけれども、こちらは主幹と担当の二人が事務局で入って、議事録もきちんととっていますし、情報交換できるように、そちらのほうに提出することもできるので、今後、連絡はさせていただきます。

(山岡委員長) この広域連携は、自治体の職員の方同士ということでやっておられますけど、今みたいに実際に現場と連携したり、活用したりみたいなことにも、うまくできるといいかなと思うんですよね。

現実的かどうかわからないけど、例えばインターンシップなんか寒川や茅ヶ崎の人が来たりということでもいいと思うし、広域連携していることをもうちょっと実質的な活動につなげていくとか、おろしていくとか、活用していくとか、来年度ということではなくて、考えていただけるといいかな。今たまたま細沼委員はこの場におられましたから、そういう質問ができますけど、現場で同じような問題に直面している自治会の方もおられる可能性がある。ただ、連携しているということを知らなければ、聞くこともできないので、そういうこともぜひ考えていただきたいなと思います。

(事務局) 具体的な事業も、2市1町でいろいろなアプローチはしていきたいという可能性は常に持ちながら、会議の場に出席をさせていただいています。

ただ、現在は全ての自治体でコロナ対策などに人を割いている状況もあり、具体的な事業は難しいという話になっておりまして、現在この協議会は情報交換の場として進めている状況でございます。

(山岡委員長) それでは、予定の時間にもなってまいりました。こちらの推進計画については、ここで承認とかなんとかじゃなくて、ご意見をいただくということですので、今日時間がなくて発言ができなかったとか、あるいはすごく大量の情報が入っていますので、後でまた読んで気がついたことがあったとか、そういうことがあれば、事務局にメールでお寄せいただければ、受けとめていただけるということです。時間もありますので、もしご意見があれば事務局のほうにお申し出ください。

以上で、議題2「今年度の取組結果及び次年度の取組計画について」を終了いたします

す。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

### (3) その他

(山岡委員長) 最後に、議題(3)「その他」について、事務局よりお願いいたします。

(事務局) それでは、事務局より、次回、第10回の開催予定についてご連絡させていただきます。

今回は3月17日(木)、午後6時からとなります。第10期、今回の委員の皆様にとって最後の委員会になります。対面での開催も検討してまいりましたが、状況がなかなか難しいところもございますので、次回につきましても、最終回ではございますが、本日と同様にZoomでの開催を予定しております。どうぞよろしくをお願いいたします。詳細につきましては、後日またメール等でご案内させていただきますので、ご確認をどうぞよろしくをお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(山岡委員長) 以上で本日の日程が全て終了しました。

以上をもちまして第9回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後7時17分 閉会